

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成25年10月1日 NO.21

「感動」ありがとう！子ども達に大きな大きな拍手を！

秋風爽やかな日本晴れの9月28日(土)、第七小学校の運動会を無事に終えることができました。子ども達の競技や演技には、保護者・地域の皆様から温かいご声援をいただき、本当にありがとうございました。

2学期となり、9月始めは暑さも残り、子どもたちの練習は、強い日差しと暑さとの戦いでした。その中で、子ども達は大変よく練習に励み、本番を迎えることができました。当日は、その練習の成果が見事に発揮されて、子ども達一人一人の顔が耀き、無事故で大満足の素晴らしい感動の運動会であったと思います。子ども達の頑張りに大きな大きな拍手を送りたいと思います。

第七小学校の運動会の特色は、紅白対抗の白熱した競技とすばらしい表現活動です。それぞれの得点板のうつりかわりに一喜一憂しながら、力みなぎる頑張りを至る所で見せてくれました。白熱したドラマは子ども達が演じ、一人一人が各場面で主役を務めました。互いに競い合うことで、それぞれの力を高めていける醍醐味があるのも、運動会の学習活動です。競技中の応援団の応援と児童席から自然にわきあがる応援の嵐・嵐・嵐は、チームの勝利に向かって、子ども達の心が一つになった姿です。まさに「心を一つに ファイト一発！」の運動会でした。

運動会は、子どもを大きく成長させる教育の場です。体力向上はもちろんのこと、他とのかかわりの中で、友達を思いやること、協力して一つのことをやりとげること等の大切さを、自らの体験を通して子ども達は学びます。そして、何よりも自分の中に課題を設定し、それに向かって挑戦し努力し、成就感や成功感を味わうことのできる貴重な体験の場でもあると思います。

昭和の文人である坂口安吾氏の言葉に、「人間の尊さは、自分を苦しめるところにある」という言葉があります。子ども達が、自分にちょっと負荷をかけながら、挑戦、達成感を繰り返し、ハードルを越えて成長する。これこそ「人間の尊さ」と言っている安吾氏の言葉が、この運動会という行事に重なって響きます。子どもたちは、運動会の中で、それぞれの自己実現を果たし、自らの力を高めていったと感じています。

これからも子どもたち確かな学力の伸長と心と体の健やかな成長を願い、安心・安全の学校づくりをめざし、第七小学校の教育活動の充実に奮闘努力して参ります。

保護者・地域の皆様、さらなるご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



七小学園天国（低学年）



七小ソーラン（中学年）

情熱～131人での挑戦～（高学年）

